

はじめに

季節の変わり目に吹く風に、心を奪われる瞬間があります。

それは、わたしにとって懐かしい香りを運んでくれるものであったり、鮮やかな想い出の色が、蘇る瞬間であつたりします。

よいことも悪いことも含めて、心地よい風に全てを預けられるように生きてゆけたらと思います、この本を書きました。

鎌倉に吹く風は、なぜかそんな柔らかなさを含んでいるように感じます。

この町を訪れるたくさんの観光客の方たちも、もしかしたらその風を感じるために訪れているのかもしれませんが。

この本は、そんな風を感じながら鎌倉に暮らす、四人の女性たちの物語です。

ページを開くたびに、鎌倉の移りゆく季節と、その時々々に吹く風を感じていただ
けましたら、筆者としてとても嬉しく思います。